

日本海北部スケトウダラ魚群分布調査結果

平成 29 年 9 月 13 日

北海道立総合研究機構 水産研究本部 稚内水産試験場・中央水産試験場
(連絡先：稚内水試 美坂 0162-32-7166, 中央水試 星野 0135-23-8707)

- ◎魚探反応量は全ラインで前年度より増加，全体では前年度の約 1.4 倍，武蔵堆西側から小樽堆周辺にかけて大きな反応が見られた
- ◎魚群の主体は，尾叉長 30 cm 台後半の 5 歳魚（2012 年級）と 30 cm 未満の 1～2 歳魚（2015, 2016 年級）
- ◎2015 年級（2 歳）と 2016 年級（1 歳）は 2006 年級に匹敵する高豊度年級である可能性がある

1. 調査概要

雄冬岬以北の道西日本海において，2017 年 9 月 5～11 日に試験調査船北洋丸の計量魚群探知機 EK60 および着底トロール網により，スケトウダラ魚群分布調査を実施しました。

2. 魚探反応量

スケトウダラの魚探反応量（NASC）の分布を図 1 に，魚探反応量の大きかったラインの魚探画像を図 2 に，魚探反応量の経年推移を図 3 に示します。今年度の調査では，武蔵堆西側（ライン C 西）から小樽堆周辺（ライン F）にかけて大きな反応が見られ，すべての魚探ラインにおいて過去 10 年の反応量を上回る値が記録されました。2014 年度以降の反応量は全体として増加傾向で推移しており，今年度の全ライン平均 NASC は前年度の約 1.4 倍となりました。

3. サイズ組成

トロール網で採集されたスケトウダラの尾叉長組成を図 4 に示します。魚探反応量の大きかった武蔵堆西側や小樽堆西側におけるトロール採集物の主体は，尾叉長 30 cm 台後半の 5 歳魚（2012 年級），20 cm 台後半の 2 歳魚（2015 年級），10 cm 台後半の 1 歳魚（2016 年級）でした。

4. 加入動向

今回までの調査結果に基づき，2015，2016 年級の分布量を予備的に解析したところ，近年の漁獲を支えてきた 2006 年級に匹敵する水準である可能性が出て来ました。1～2 歳魚は今漁期には漁獲対象サイズに達しないため，できるだけ混獲を避け，次年度以降に資源をしっかりと残していくことが必要です。

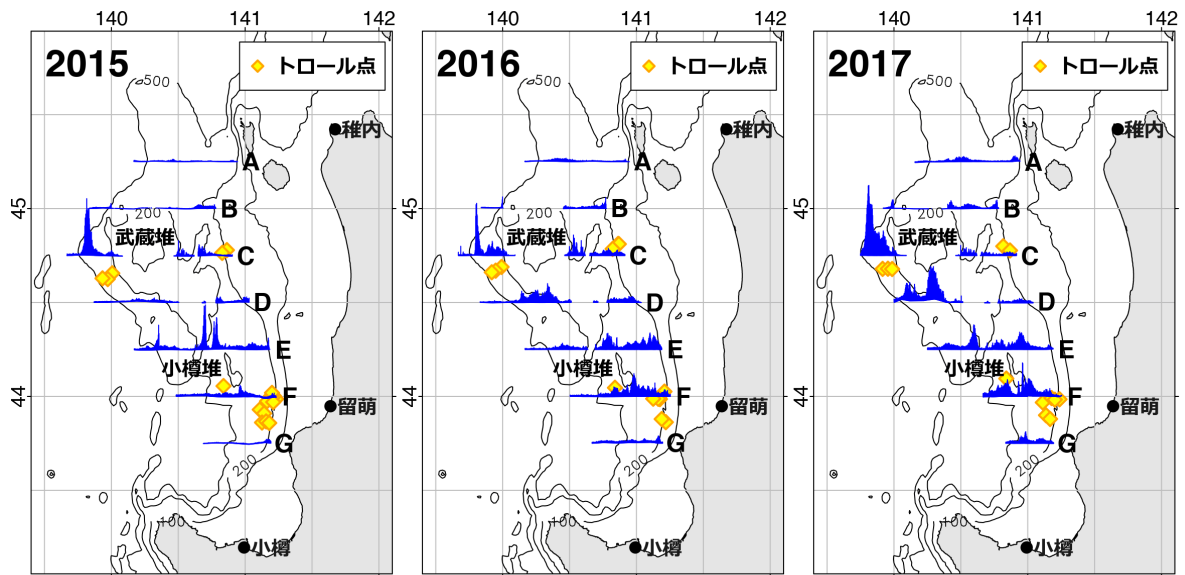


図 1. 魚探反応量の分布 (A-G: 水深 200 m 以深) とトロール点の位置.

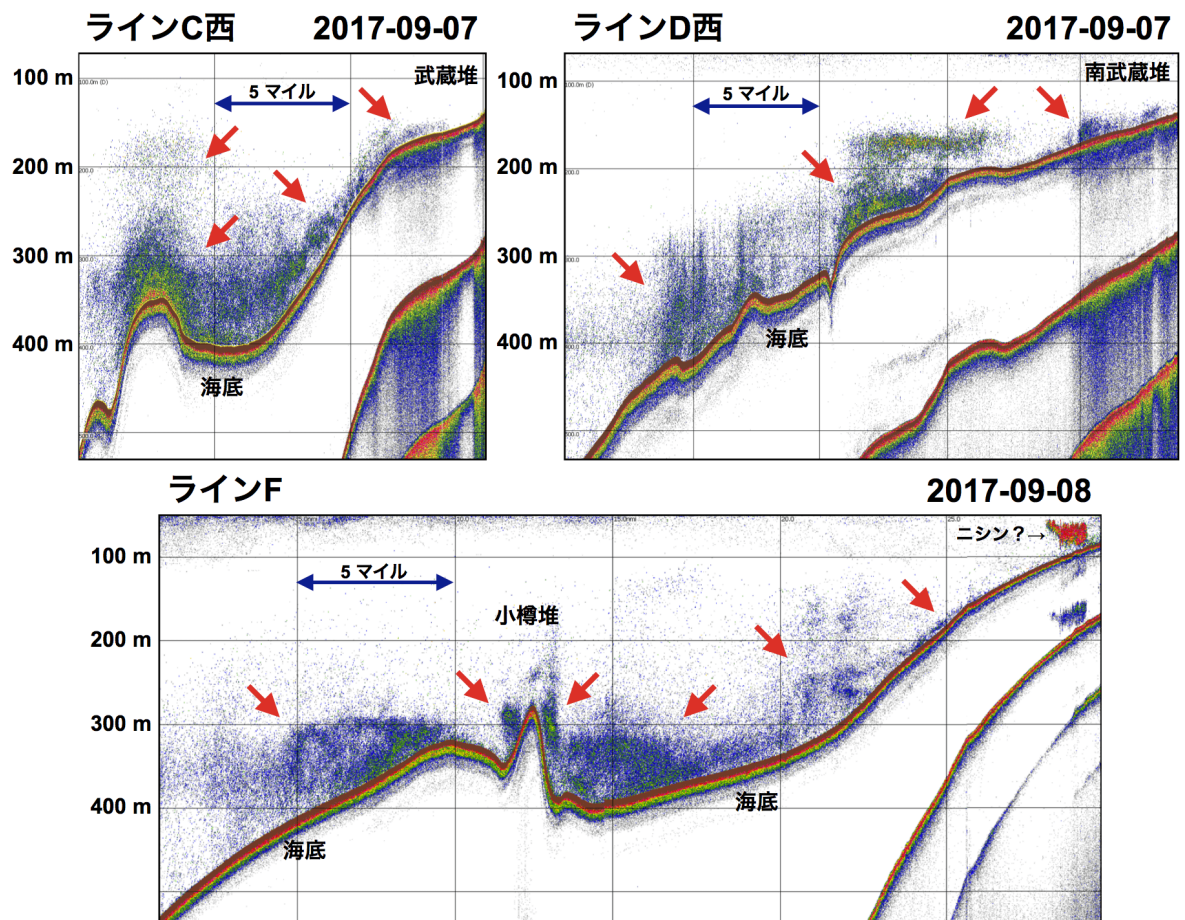


図 2. 魚探反応量の大きかったラインの魚探画像 (エコーグラム). 赤矢印はスケトウダラ魚群と見られる反応.

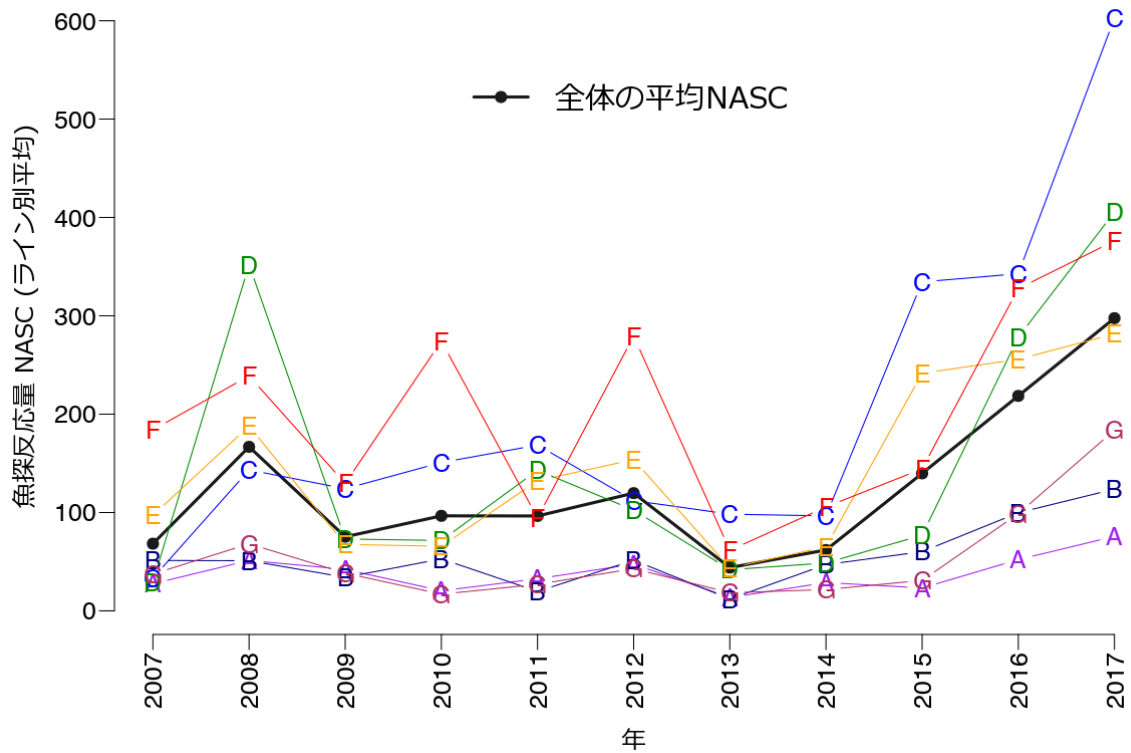


図 3. 調査ラインごとの魚探反応量 NASC の経年推移（水深 200～500 m の平均値）.
 NASC：1 平方マイルあたりの魚探反応量で，魚群分布量の指標になります。

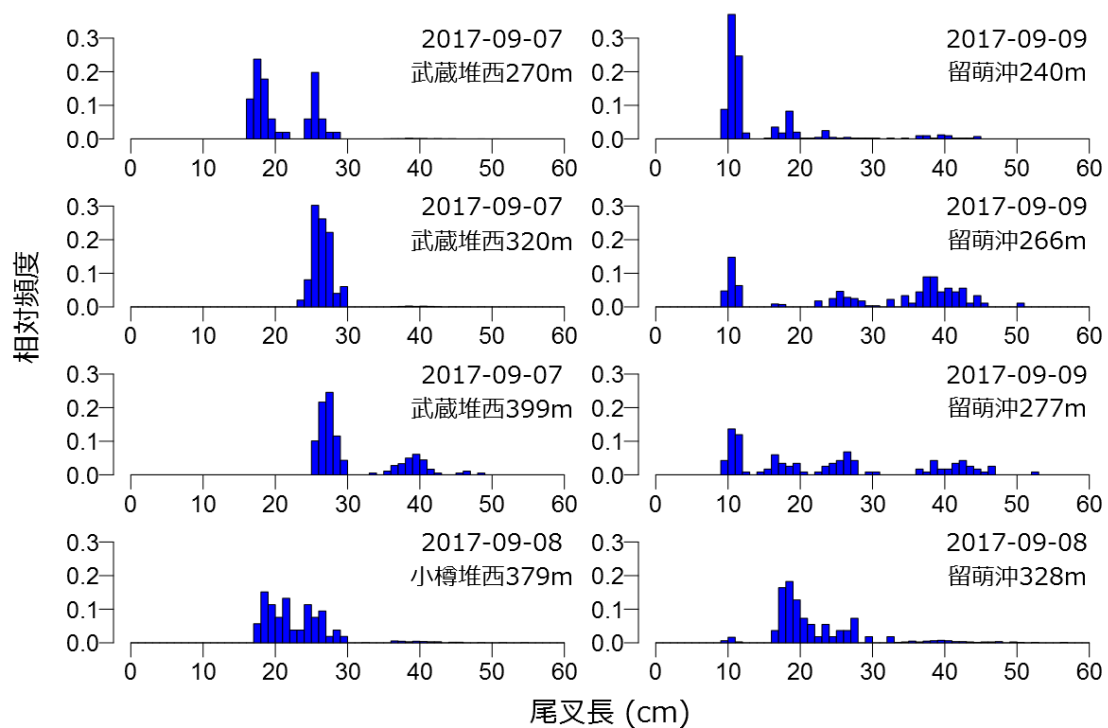


図 4. スケトウダラの尾叉長組成（2017 年 9 月道西日本海）. トロール調査 12 点のうち 8 点の測定結果を示します. 水深 200 m 前後で実施した残り 4 点では尾叉長 10 cm 前後の 0 歳魚が主体でした.